

# スマホで避難対策

沖繩市高原  
自主防災組織  
経路測定を実験

【沖繩】沖繩市の高原 経路を測定する実験をし  
自主防災組織（平安座朝  
信会長）のメンバー15人  
は4月28日、災害時の避  
難経路の整備に生かそう  
と、スマートフォンを使  
い避難場所までの時間や  
予定する11月の避難訓練  
までに、避難経路や要援  
護者、保育園の位置な  
ど、必要な情報を区民が  
パソコンなどで共有でき  
る「自主防災組織管理シ  
ステム」作りを目指して  
いる。

同組織は東日本大震災  
の発生を受け、沖繩市高  
原自治会（同会長）の住  
民らが1月に結成。市が  
提供する11月の避難訓練  
までに、避難経路や要援  
護者、保育園の位置な  
ど、必要な情報を区民が  
パソコンなどで共有でき  
る「自主防災組織管理シ  
ステム」作りを目指して  
いる。



スマートフォン片手に避難経路を歩く区民ら  
= 4月28日、沖繩市高原

実験ではまず、地理情  
報システム（GIS）の  
活用方法を研究する琉球  
大非常勤講師の渡邊康志  
氏がシステムの概要を説  
明した。

渡邊氏の指示の下、ス  
マートフォンに、歩いた  
経路や標高、時間などを  
記録し、地図上に表示で  
きる無料のアプリをダウ  
ンロード。アプリを起動  
させたスマートフォンを  
片手に避難経路を歩い  
た。計測後はデータをパ  
ソコンに取り込み、共有  
できるようにした。

同組織の有銘政秀安全  
点検班長は「アプリを使

えばストップウォッチ片  
手に歩く必要がなくなる  
。隣接する自治会にも  
提案して一緒にシステム  
を作っていききたい」と意  
気込んだ。  
あればすべて無料ででき  
る。災害時に電源が落ち  
ると（システムが）閲覧  
できないのが欠点だが、  
区民みんなで作り上げる  
過程に意味がある」と語  
った。

渡邊氏は「やる気さえ

2012年(平成22年)5月9日(水)

琉球新報31面市町村掲載記事